報道関係者各位

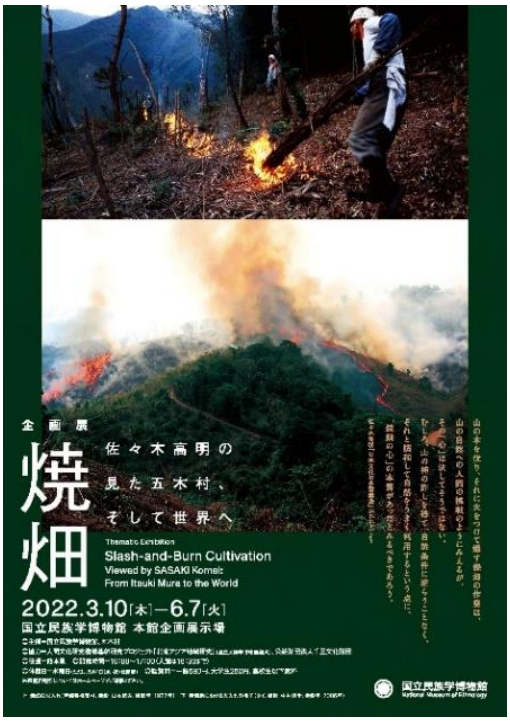
2022年　2月　15日

企画展「焼畑――佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」

2022年3月10日（木）～6月7日（火）

新型コロナウイルス感染症の状況によっては、会期・イベント等を変更・中止する場合があります。

国立民族学博物館（大阪府吹田市千里万博公園10-1）では、企画展「焼畑――佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」を2022年3月10日（木）から6月7日（火）まで開催します。



展覧会について

焼畑は人類の歴史とともに長い伝統を持ち、現在でも熱帯地域では欠かせない生業基盤のひとつになっています。しかし東南アジアなどでは森林破壊の原因のひとつと見られ負のイメージが強いです。

一方で焼畑は、アワ、ヒエ、バナナ、サトイモ、アズキ、ソバ、カブなどが栽培されて、収穫後は畑地を森にもどす再生型の農耕であり、その間には狩猟や採集がおこなわれています。このため今日の日本では自然に優しい持続型農法として注目されています。

本展では、佐々木高明（ささきこうめい）が熊本県五木（いつき）村で撮影した焼畑の写真や現地で使用されてきた道具をはじめとして、日本や世界の焼畑がどの地域でどのような環境のもとおこなわれてきたのか、各地域の焼畑の特徴はなにかを紹介します。また、五木村を中心とした世界各地の焼畑をとおして、人間と自然との共生のありかたについて考えます。

資料点数

標本資料等：約130点、写真資料：約100点、動画資料：約10点

みどころ

焼畑は、森の一部を伐採・火入れをして耕作したあとに森にもどす循環型の資源利用です。森にもどす過程では植生の違いに応じて山菜やタケノコの採集、イノシシの狩猟などもともないます。本展では、佐々木高明の調査した五木村の焼畑を中心にして、日本の焼畑、世界の焼畑を紹介し、現代社会のなかでの焼畑の持つ意義について考えます。

展示構成 （コーナー名は後日変更になることがあります。）

1. 佐々木高明の見た焼畑と人　1958-1960年

2. 最後の焼畑の民　五木村・嶽本キクエの暮らしと焼畑2021

3. 人の移動と焼畑の歩み　五木村から世界へ　火と人の歴史・山の弥生人

4. 焼畑で世界一周

5. 現代社会と焼畑　日本と世界を繋ぐ

佐々木高明（ささきこうめい）について（1929年―2013年）

1929－2013 年。民族学者、地理学者。国立民族学博物館二代目館長。文学博士。日本や世界の焼畑研究の第一人者。1958－60 年の五木村での調査を出発点として世界的に焼畑研究を展開した。紫綬褒章、今和次郎賞、南方熊楠賞などを受章（賞）している。

主な著作

1971年　『稲作以前』（NHKブックス147）日本放送出版協会
1972年　『日本の焼畑：その地域的比較研究』古今書院
1982年　『照葉樹林文化の道』（NHKブックス422）日本放送出版協会
2009年　『日本文化の多様性』小学館

実行委員長　　池谷　和信 （国立民族学博物館　教授）

国立民族学博物館　教授。専門は環境人類学、人文地理学。主な著書に、『人間にとってスイカとは何か』『家畜にいま何がおきているのか』など。日本の山村で山菜採りをめぐるナワバリの研究から始めて世界中の狩猟採集の民族学的研究をおこなってきました。今回は狩猟採集研究者の立場から人類の歴史の中での焼畑を考えます。

実行委員

木野　徹也　　（ヒストリアテラス五木谷　館長）
福原　博信　　（ヒストリアテラス五木谷　副館長）
江頭　宏昌　　（山形大学　教授）
藤尾　慎一郎　　（国立歴史民俗博物館　教授）
米家　泰作　　（京都大学　教授）
佐藤　廉也　　（大阪大学　教授）
川野　和昭　　（元鹿児島県歴史・美術センター黎明館　学芸課長）
ヨーゼフ・クライナー　（ボン大学　名誉教授）
野林　厚志　　（国立民族学博物館　教授）

開催概要

展　示　名	企画展「焼畑――佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」 Slash-and-Burn Cultivation Viewed by SASAKI Komei: From Itsuki Mura to the World
会　　期	2022 年 3 月 10 日（木）～6 月 7 日（火）
会　　場	国立民族学博物館（大阪府吹田市千里万博公園 10-1）　本館企画展示場
開館時間	10:00～17:00（入館は 16:30 まで）
休　館　日	水曜日（ただし、5 月 4 日（水・祝）は開館）
観　覧　料	一般 580 円（490 円）、大学生 250 円（200 円）、高校生以下無料 ※（）は 20 名以上の団体料金／リピーターは団体料金を適用 ※本館展示もご覧いただけます
主　　催	国立民族学博物館、五木村
協　　力	人間文化研究機構基幹研究プロジェクト「北東アジア地域研究」（国立民族学博物館拠点）、公益財団法人　千里文化財団
後　　援	熊本県

関連イベント

■みんぱく映画会

「焼畑から見た日本の文化」 上映作品「椿山――焼畑に生きる」

日本列島では山地部を中心にして先史時代以来現在まで焼畑がおこなわれてきました。
本公演は2部構成で、第1部では戦後までおこなわれていた四国の焼畑を映像で紹介し、第2部では長年にわたって焼畑の調査・研究をしてきた研究者をまじえて日本の焼畑の過去、現在、未来について討論します。日本文化にとって焼畑とは何かを考える機会になるでしょう。

会　　場	国立民族学博物館　みんぱくインテリジェントホール（講堂）
日　　時	4 月 30 日（土） 13:00～16:00 （12:30 開場）
登 壇 者	野本寛一（近畿大学　名誉教授）、川野和昭（元鹿児島県歴史・美術センター黎明館　学芸課長）、池谷和信（本館　教授）
映画情報	上映作品「椿山――焼畑に生きる」 1977 年／日本／日本語／95 分／日本語字幕なし 監督・プロデューサー：姫田忠義 配給：民族文化映像研究所 高知県池川町椿山において集落の主な生業である焼畑に焦点を当てたドキュメンタリー。
参加方法	要事前申込／先着順／要展示観覧券 ※オンライン（ライブ配信）の実施はありません。
プログラム	開会挨拶（池谷和信） 第 1 部：映画上映　上映作品「椿山――焼畑に生きる」 休憩：15 分 第 2 部：ディスカッション 「日本の焼畑を考える」 登壇者（野本寛一、川野和昭、池谷和信）

■みんぱくゼミナール

「焼畑は環境破壊か――佐々木高明の研究とその後」

会　　場	国立民族学博物館　みんぱくインテリジェントホール（講堂）
日　　時	3 月 19 日（土） 13:30～15:00 （13;00 開場）
講　　師	佐藤廉也（大阪大学　教授）、米家泰作（京都大学　教授）、池谷和信（本館　教授）
参加方法	要事前申込／先着順／参加無料
内　　容	国立民族学博物館二代目館長・佐々木高明は焼畑研究の第一人者です。本ゼミナールでは、日本や世界の焼畑の歴史と現状をわかりやすく紹介しながら、現代社会のなかでの焼畑の意義について考えます。

焼畑の火入れの前に枝木を伐採
（熊本県五木村、1960 年、撮影：佐々木高明）

■みんぱくウィークエンド・サロン――研究者と話そう

「日本の焼畑」

会　　場	国立民族学博物館　第 5 セミナー室（本館 2 階）
日　　時	3 月　27 日（日）14:30～15:00 （14:00 開場）
話　　者	池谷和信（本館　教授）
定　　員	42 名
参加方法	申込不要／先着順／要展示観覧券
内　　容	焼畑は、森の一部を伐採・火入れをして耕作したあとに森にもどす循環型の資源利用です。このため、植生の違いに応じて山菜やタケノコの採集、イノシシの狩猟などもともないます。ここでは、日本の焼畑を事例にして、世界の焼畑のなかでの特性、日本文化のなかでの焼畑の持つ意義について紹介します。

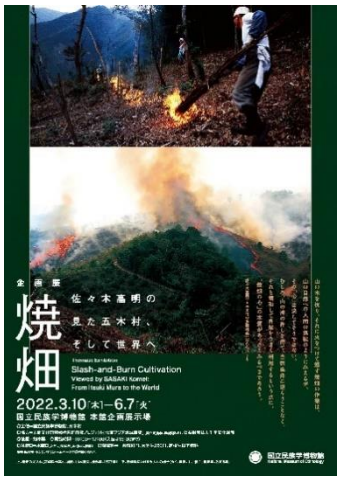
斜面にある焼畑地
（熊本県五木村、1960 年、撮影：佐々木高明）

「台湾原住民族と焼畑農耕」

会　　場	国立民族学博物館　第 5 セミナー室（本館 2 階）
日　　時	4 月　3 日（日）14:30～15:00 （14:00 開場）
話　　者	野林厚志（本館　教授）
定　　員	42 名
参加方法	申込不要／先着順／要展示観覧券
内　　容	焼畑農耕はかつて台湾の原住民族の生計を支え、集団の規模を大幅に増減させずに、集団の生態学的な健康を維持する有効な生業活動でした。日本統治時代や中華民国の施政下、衰退した焼畑農耕を歴史資料や民族誌を手掛かりに解説し、その生態学的、文化的意義を考えます。

パイワン族が焼畑で栽培し収獲したアワ
（1997 年、撮影：野林厚志）

企画展「焼畑――佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」
広報用画像リスト



【1】企画展チラシ

【2】焼畑の農法を受け継ぐ女性
（熊本県五木村、撮影：寺嶋悠、撮影年：2021年）

【3】焼畑の火入れ
（宮崎県椎葉村、撮影：山本紀夫、撮影年：1977年）

【4】焼畑地における火入れの様子
（タイ、撮影：中村信介、撮影年：2006年）

【5】キオロシ（枝打ち）の際に木から木に渡る住民
（熊本県五木村、撮影：佐々木高明、撮影年：1960 年）

【6】アマゾンの焼畑地での除草の様子
（ペルー、撮影：池谷和信、撮影年：2011年）

これらの広報画像はデータにて提供可能です。
ご入り用の画像があれば、総務課広報・IR 係まで次頁申込用紙にてお申し込みください。
資料名につきましては、展示場での表記と異なる場合がございます。

企画展「焼畑――佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」
広報用画像利用申込用紙

〔E-mailでお申し込みの場合〕koho@minpaku.ac.jp
〔FAXでお申し込みの場合〕 FAX番号: 06-6875-0401

【ご希望の画像番号】

【貴社・貴機関についてお知らせください。】

貴社・貴機関名	媒体名
ご担当者名	所属部署
ご住所　〒	E-mail
電話番号	FAX番号
ご掲載・放映の予定日が決まっている場合　　年　　月　　日	

【プレゼント用招待券】(ご希望の場合はどちらかにチェックを入れてください)
□ 3組6枚　　□ 5組10枚

※チケット発送先が上記所在地と異なる場合は、下記にご記入ください。

発送先　〒

【広報に関するお願い】
■ 写真使用に関するお願い、注意事項
・クレジットには次のとおり記載してください。
【1】～【6】撮影者名を入れてください。
・写真(画像)のトリミングや文字乗せはご遠慮ください。
・作品写真の使用目的は、本展の紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。
■ 本館の基本情報等の確認のため、E-mailまたはFAXにて、掲載記事、番組内容の原稿等を下記連絡先までお送り願います。
■ お手数ですが、掲載紙・誌または録画媒体を2部お送りください。

［お問い合わせ］ 国立民族学博物館　総務課　広報・IR係
電話:06-6878-8560(直通)　　FAX:06-6875-0401　　E-mail:koho@minpaku.ac.jp
プレス向けウェブサイト:www.minpaku.ac.jp/press